

平成30年5月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年5月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月と比較し、売上高は6ポイント、収益状況は4ポイント、景況感は8ポイント改善した。

前月との比較でも、売上高で16ポイント、収益状況は4ポイント、景況感は12ポイントいずれも増加している。

業種別のD I値では、製造業は、金属加工及び一般機器の業界においては好調が続ки、製造業全体として、売上高が前年同月比25ポイント、前月比では10ポイント増加した。

非製造業では、運送業界では原油価格の高騰を販売価格に転嫁できず収益状況を圧迫しているとの報告があった。一方、宝飾業界では出展した展示会で海外バイヤーからの商品購入・発注が増加したとの報告があり非製造業全体としては、前月比で収益状況は不変だが、売上高は20ポイント、景況感は13ポイントそれぞれ改善した。

景気回復の実感はずべての業種に及ぶものではなく消費者の購買意欲や企業等の設備投資を後押しするまでには至っておらず、さらに人材の確保難から事業の縮小等を懸念する報告もあった。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフトの売上は前倒し受注があり前年同月比113.6%。ホテル・レストラン向けの業務用が低調で、全体として前年同月比89.9%と前年を下回った。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の売上は量販店及び専門向け・輸出向けとも減少し、前年比89.8%、OEMは焼き菓子・冷凍ケーキで前年同月比98.1%、全体の売上は前年同月比93.7%。
食料品（麺類製造）	富士山周辺では外国人観光客が増加傾向にあるが、麺類の土産の販売量は減少傾向。今後対策を行っていく。
食料品（パン・菓子製造業）	人材確保の難しさを痛感している。組合員企業では外国人を2名雇用する計画があり、外国人の受け入れを実施している企業の工場見学を行う予定である。
食料品（酒類製造業）	消費の冷え込みから、前年同月比で5%売上が悪化。
繊維・同製品（織物）	梅雨に向けて傘地の準備が進む。インテリアは注文がなく厳しい状況。
繊維・同製品（アパレル）	下請け加工業者では仕事量の減少、販売価格の低下がみられ、売上高は前年同月比10%で悪化した。自社ブランドを持っている製造販売を行う企業は堅調に売上を伸ばしている。

木材・木製品製造	住宅業界は新規物件が少なく景況感はよくない。来月も低水準が予想される。売上高は前年同月比で12%悪化した。
印刷・同関連業	組合青年部が発足し、人材育成及び事業継続に向けた活動を行う予定。
窯業・土石（砂利）	骨材に使用する砂の出荷が堅調で在庫不足が続く。売上高が前年同月比20%増加した。
窯業・土石（山碎石）	年度末からの繰り越し工事により出荷量が前月比から1%増加したが、売上高は前年同月比で4%悪化。改善傾向は見通せず、新年度工事の早期発注に期待している。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	半導体関連が好調で、売上高、収益状況とも5%それぞれ増加した。人材不足が課題。
一般機器 （金属製品製造業）	半導体部品製造は好調が続いているが、減少傾向。前年同月比で売上高、収益状況とも2%それぞれ増加した。人材不足が課題。
一般機器 （工作機械部品加工業）	人材不足が課題である。
電気機器 （工作機械部品加工業）	半導体部品製造は好調が続いているが、減少傾向。医療関係の製造がスポット的に増加。売上高、収益状況とも10%それぞれ増加した。

● 非製造業

卸売（塗料）	労働者不足が一層顕著であり、仕事の進捗状況に影響が出始めている。
卸売（ジュエリー）	神戸国際宝飾展での海外バイヤーによる購入・発注が増加し、売上高は前年比で10%増化した。特に真珠製品が好調であった。
小売（青果）	野菜の入荷量が増加したため販売価格は低下したが、これまでの高値による消費者の野菜ばなれから売上が伸びず、収益状況も悪化した。今後に期待している。
小売 （ガソリン）	5月末日のドバイ産原油価格が75.2ドルに達し、卸売価格も連動して上昇し続けている。小売価格も上昇を続けるが、転嫁不足のため収益につながらない。
宿泊業	5月は外国人宿泊客が増加したものの単価が低かったため、売上は増加しなかった。GWは5/1・2の平日及び5/5・6は空室が目立った。全体として前年同月並みであった。
美容業	人材不足が慢性的な課題である。
警備業	例年5月は閑散期となるが、本年はリニア中央新幹線や中部横断自動車道等の関連公共工事による長期・固定化した警備員の派遣要請があり、稼働率が例年になく向上。売上高、収益状況とも増加した。警備員の高齢退職や他業種への転職により雇用人数が減少したため、新たな受注が行えない他、既存事業も中断や縮小せざるを得ない状況となっている。人材確保のため賃金値上や福利厚生充実を図っていくために、発注者側にもコスト面の理解を得るのを感じている。

建設業（総合）	5月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は16%、請負金額は26%共に増加している。5月末累計でも件数で7%、請負金額で2%共に増加している。単月及び累計で増加する好ましい結果だが、平成30年度が始まったばかりなので、今度の動向に注視したい。
建設業（型枠）	5月は例年と比較し仕事量が少なかった。今年度は公共工事や、病院等の民間工事が多く計画されているが、消費税増税後の先行きは不透明。
建設業（鉄構）	首都圏などの県外物件に受注が依存してる。鋼材価格が高騰の上、納期が長い。
設備工事（電気工事）	工事件数は少ないが、見積依頼が少々出てきた。今後の発注につながるよう期待している。
設備工事（管設備）	設住宅着工件数は数か月連続で減少傾向である。売上高は前年同月から7.7%減少。国の進める「働き方改革」に伴う工期の変動に対し、今後の見通しは不透明。技能労働者の数が不足している。
運輸（タクシー）	連休中の観光客利用が少なく、夜の飲食店の休業する店舗が多く乗客数が少なかった。燃料代が値上がり傾向であり、今後の見通しは厳しい。
運輸（バス）	燃料代の値上がりから、長距離の仕事の収益状況を圧迫し、前年同月比で20%悪化した。
運輸（トラック）	燃料代の値上がりと、労働時間削減対策として人員を増加した影響から収益状況を圧迫した。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/05	2018/04	2018/05	2017/05	2018/04	2018/05	2017/05	2018/04	2018/05
売 上 高	-10	5	15	10	-17	3	2	-8	8
収 益 状 況	-10	-15	-5	-13	-10	-10	-12	-12	-8
景 況 感	-5	-10	0	-10	-13	0	-8	-12	0

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

